

## 明治期以降曹洞宗人物誌（四）

川口 高風

はじめに

本稿は「愛知学院大学教養部紀要」第五十八巻第三号（平成二十三年二月）に所収の拙稿「明治期以降曹洞宗人物誌（三）」の続編で、「あ」項の続きである。全項の人物誌が完成した時は『近・現代曹洞宗人名辞典』と題して刊行する予定で、一日も早い完成をめざし精進している。

凡例

〔見出し項目〕

- 一、収録人物は明治期以降の顕著な業績を残した人物で、その出典は「明教新誌」「宗報」「曹洞宗報」を中心に各種雑誌や著作などから採取した。
- 二、見出しの人名は当時用いた旧漢字とした。事歴の本文は新字体を用いたが、旧字体を使用したものもある。
- 三、見出しの項目はかな見出しを太字で示し、次に漢字を掲げ

明治期以降曹洞宗人物誌（四）

四、かな見出し項目は姓と名の間にダッシュを挿入して読みやすくした。

〔見出し項目の配列〕

- 一、五十音順に配列した。
- 二、同音同字の漢字項目は時代順（没年順）に配列した。
- 三、同音異字の漢字項目は第一字目の画数の少ないものからの順とした。また、第一字目が同画数の時は第二字以降の画数の少ないものから配列した。

〔本文の記述とその順序〕

- 一、本文の記述は敬語、敬称の使用を避けた。
- 二、収録にあたっては歴住地、号、字、生年月日、父母、誕生地、受業師、本師、学歴、僧堂安居歴、宗門役職歴、社会的職歴、著作類、示寂（没）年月日、行年、参考文献の順とした。不明な場合は記していない。
- 三、本文は基本的に、編者が直接、歴住地へ問い合わせを行った返書にもとづいて執筆した。それ以外に参考とした文献は末尾に掲げた。
- 四、伝記中の元号の一番最初（初出）に西暦を入れた。ただし、伝記中の生没年には西暦を入れない。
- 五、寺院の所在地は、平成の大合併による新市町村名への変更を行っていないが、変更したものもある。
- 六、歴住地は歴住の順序通りでないものもあり、何世か不明な場合は記していない。

あらいーきいち 荒井帰一

一 昭和三年(一九二八)

小千谷市長楽寺二十一世、新潟市法音寺二十四世。号は萬法。新潟県高田に生まれる。本師は、碩慧鉄文。曹洞宗宗公選議員を務め、大正十年(一九二二)には北野元峰を迎えて授戒会を開いている。体格は太めであったため、雲洞庵の新井石禪と二人を「大あらい」「小あらい」と呼んだ。昭和三年十二月十六日に六十四歳で示寂した。

あらいーせきぜん 新井石禪

元治元年(一八六四)一 昭和二年(一九

二七)

總持寺独住五世、南足柄市最乗寺独住八世、埼玉県北葛飾郡善徳寺、春日部市浄春院二十九世、新潟県中蒲原郡大栄寺二十八世、新潟県南魚沼郡雲洞庵四十四世、名古屋市護国院九世。号は穆英。元治元年十二月十九日に福島県伊達郡梁川町の石井家に生まれる。受業師、本師は新井如禪。明治十三年(一八八〇)三月に埼玉県北葛飾郡

の善徳寺に首先住職し、ついで十三年十月

に同郡の浄春院に転住する。十五年三月に駒込曹洞宗専門本校を卒業し、十五年四月に總持寺へ安居し、畔上樸仙に参随する。十七年に埼玉県曹洞宗専門支校の教師、二十年に同校教師取締と支校教師を兼任する。翌二十一年には新井如禪が總持寺後堂に就任したので随侍する。二十二年三月に曹洞宗大学林学監兼教授、二十五年十月新潟県中蒲原郡横越村大栄寺に住職し、永平

寺出張所詰を務める。二十八年新潟県曹洞

宗教導取締並に第二十中学林監理、二十三年に宗務局詰、三十四年に制度調査委員、

新潟県南魚沼郡上田村雲洞庵に転住する。

三十五年一月に永平寺副監院、宗務院教学部長、人事部長を務め、四十一年八月には

満州、朝鮮、台湾を巡教する。四十四年に

森田悟由の随行長を務め、大正四年(一九一五)には名古屋市の護国院に転住した。

翌五年には神奈川県最乗寺へ昇住し、六

年に總持寺再建部総裁となり、八年には管

長代理として満州を巡教し、九年三月には

總持寺西堂に就く。同年十二月二十三日に

總持寺貫首となり、十年六月にはハワイ及

びアメリカに巡教し、九月二十八日にハーディング大統領と会見した。『新井石禪師全集』十二巻、『三根坐禪說略解』『曹洞宗義大綱』『禪学入門』『禪学大意』『解脱と人生』などを著わしており、昭和二年十二月七日に六十四歳で示寂した。(洞上高僧月旦)『現代仏教家人名辞典』『曹洞宗名鑑』『曹洞宗現勢要覽』

あらいーせきりゅう 新井石龍

明治二十二年(一八八九)一 昭和五十九年(一九八四)

新潟県南魚沼郡雲洞庵四十五世、埼玉県北

葛飾郡九品寺、北海道常呂郡留辺蘂町大泉寺。号は無著。明治二十二年九月二十九日

に新潟県中蒲原郡村松町の小島重太郎の二

男に生まれる。受業師、本師は新井石禪。明治三十六年(一九〇三)雲洞庵専門僧堂

に入門し、四十四年に新潟県立新潟中学校

を卒業。大正三年(一九一四)金沢第四高等学校を卒業、六年には京都帝国大学哲学

科を卒業する。昭和十四年(一九三九)、

泉仏教各宗代表中支派遣皇軍慰問団長として中支戦線巡錫、十七年には満鉄会社より招聘されて渡満し全満鉄道職員に講演行脚。国民精神総動員県実行委員理事、県支部翼賛参与、産業報国会顧問、軍事保護院講師、文部省勤労者教育中央会講師、新潟県公安委員、司法委員、家事調停委員、新潟県社会教育委員などを務める。昭和三年より十九年までと二十六年より五十四年まで月刊寺報「雲洞」を発行。四年に雲洞庵専門僧堂認可禅林を設置。永平寺副監院、特選議員、師家、九年より永平寺貫首、總持寺貫首の随行長、十六年四月には永平寺臨時監院、説戒師、二十二年に特選議員を務める。昭和五十九年二月十六日に示寂した。(『曹洞宗現勢要覧』『雲洞庵の石龍禅師さま』)

あらおーだいけい 荒尾大慶

弘化四年(一八四七)ー明治二十五年(一八九二)

岡山県阿哲郡観音寺十九世、鳥取県西伯郡住雲寺。号は春山。弘化四年四月八日に鳥

取県の荒尾成緒の三男に生まれる。幼名は成慶。荒尾家は代々鳥取藩(池田家)の家老職にあり、同藩米子城主として明治維新になり、家臣の犯した事件のため一切の家財を無くした。それにより成慶は大慶と名を替え出家したといわれる。明治十二年(一八七九)十二月には寺観を修理して莊嚴を備え、開山三百回忌を修行している。明治二十五年五月二十三日に示寂した。

あらかわーそうたん 荒川宗湛

大正八年(一九一九)ー平成四年(一九二二)

名古屋市瑞泉寺三十四世、静岡県田方郡瑞林寺、小田原市宗久寺兼務住職。号は萬安。大正八年四月十八日に名古屋市緑区鳴海町相原郷の荒川時右衛門と母たまの五男に生まれる。受業師、本師は浅井大仙。渡辺玄宗、孤峰智璨、岩本勝俊らに参随。昭和八年(一九三三)に愛知中学校に編入し、十二年三月に卒業する。翌四月より駒澤大学専門部仏教科へ入学し、十五年三月に卒業した。同年夏、浅井大仙のもとで立

身し、十六年四月より十八年七月まで總持寺に安居する。十七年十月九日に大仙の室に入つて嗣法し、二十三年十一月八日に瑞林寺へ首先住職した。二十五年九月に最兼寺の専門僧堂講師及び役寮に任命され、二十七年四月に同僧堂副監事、三十八年七月に単頭、九月には曹洞宗准師家となつて、雲水修行僧の指導を行った。三十三年五月二日には宗久寺を兼務住職し、四十五年五月二十七日に瑞泉寺の副住職となり、五十二年八月二十四日に瑞泉寺三十四世の法燈を継いだ。五十三年四月には供出した後、無かつた梵鐘を鑄造し本堂や庫裡の整備など、寺門の発展的経営や参禅会指導を行った。語録に『萬安語録』がある。平成四年八月二十三日に七十四歳で示寂した。(『鳴海瑞泉寺史』『萬安語録』ー宗湛老師語録ー)

あらきーぎてん 荒木磯天

文久二年(一八六二)ー昭和二十二年(一九四七)

栃木県芳賀郡芳全寺二十五世、栃木県下都

賀郡総徳寺二十七世、栃木県芳賀郡蓮城院十四世。号は東海。文久二年十一月十日に茨城県水戸市に生まれる。俗姓を伊澤と称したが、後に荒木と改姓した。受業師は荒木佛心、本師は佛仙栄宗。原坦山にも参随している。明治二十五年（一八九二）三月、曹洞宗大学林全科を卒業、二十二年四月には栃木県曹洞宗専門支校教師、二十三年五月、福井県若越聯合曹洞宗学林長、二十四年九月、千葉・茨城・栃木三県聯合中学林学監、二十九年より四十年まで曹洞宗宗会議員、昭和二年（一九二七）七月より曹洞宗宗会特選議員などを務める。『仙術』『禅学心性実験録』などを著わしており、昭和二十二年三月三日に八十六歳で示寂した。（『曹洞宗名鑑』）

あらきーしろうじゅん 荒木尚淳

安政二年（一八五五）ー昭和六年（一九

三二）

京都府天田郡瑞光寺十五世、兵庫県水上郡法性寺十四世、兵庫県水上郡青蓮寺七世。号は尚淳、字は義堂。安政二年八月十五日

に兵庫県水上郡市島町北奥の高松伊右エ門の三男に生まれる。後に荒木と改姓。受業師、本師は黙音大應。明治十一年（一八七八）冬より八年間、兵庫県水上郡の円通寺僧堂に安居する。その間に首座となり、日置黙仙より印可証明を得、隨身した。青蓮寺の内仏の釈尊像や自分の座棺も作ったといわれている。昭和六年七月二十六日に七十七歳で示寂した。（『青蓮寺由緒記』）

あらさわーしゅうみょう 荒澤秀苗

ー昭和十三年（一九三八）

秋田県由利郡正眼寺三十五世、本莊市長谷寺十一世、秋田県由利郡龍門寺三十八世。号は益峰。正眼寺在住三十六年で、大正六年（一九一七）に長谷寺へ転住し、その後龍門寺へ昇住した。昭和十三年十二月十日に龍門寺隠寮において八十九歳で示寂した。

あらたにーしろうけん 荒谷性顕

ー大正九年（一九二〇）

名古屋市祇園寺十一世。号は密嶽。三河の

刈谷に生まれる。本師は鉄堂禪棟。明治期末に名古屋の八事近辺で愛知育児院を開き孤児の養育に献身した。大正九年九月十八日に示寂している。（『現代仏教家人名辞典』）

ありがりゅうかい 有賀龍海

明治十七年（一八八四）ー昭和二十八年（一九五三）

甲府市慶長院十三世、甲府市興国寺十八世、甲府市慶音院二十三世。号は登雲。明治十七年一月二十四日に山梨県西山梨郡甲運村横根の有賀理作の三男に生まれる。受業師は若林巨龍、本師は天崎定山。吉永耕雲、霖玉仙、森口恵徹らに参随する。三十九年（一九〇六）二月に曹洞宗認可僧堂初等科、四十三年に中等科、四十五年一月に高等科を卒業する。なお、四十三年に単身で渡満し、布教視察を行って救霊会を主幹した。大正六年（一九一七）四月に山梨県第一曹洞宗務所布教部委員同布教師嘱託、十年六月に山梨県第一曹洞宗務所布教部委員長、十三年六月山梨県第一曹洞宗務所

長、十四年六月山梨県改制曹洞宗大宗務所長に特任され、改制宗務所主任所長として合同の専任事務を完成する。十五年十月に二祖大禪師六百五十回大遠忌寄附勸募監督を依嘱され、昭和二年(一九二七)四月曹洞宗教育興隆会勸募監督、四年十二月宗務所長に任命される。十三年二月にも山梨県第一曹洞宗務所長に就き、昭和二十八年五月二十九日に六十九歳で示寂した。

ありきーかんざん 有木環山

明治三十年(一八九七)ー昭和五十年(一九七五)

福山市昌源寺十一世。号は環山、字は密溪。戸籍では明治三十年五月九日生まれとあるが、実際は二十九年二月九日誕生であった。受業師、本師は有木密英。岡田大豊に参随した。大正四年(一九一五)に広島県立誠之館中学校を卒業、さらに広島師範学校を卒業する。明治四十三年三月より昭和二年九月まで広島県尾道市天寧寺認可僧堂に安居する。昭和二十八年(一九五三)八月より瑞応寺専門僧堂講師として十

二年間勤務し、三十七年三月より四十年十月まで広島県曹洞宗務所副所長に任ぜられる。その他、広島県沼隈郡西村国民学校

長、広島県沼隈郡柳津国民学校長、広島県沼隈郡柳津中学校長、広島県社会教育委員、広島県松永市社会教育委員、広島県沼隈郡本郷村長、広島県松永市本郷保育所長、広島県松永市仏教連合会会長、広島県福山市文化財保護委員、福山城博物館運営委員や瑞応寺専門僧堂准師家、後堂などを務めた。『本郷町誌』など地方史、曹洞宗学に関する著作がある。昭和五十年十二月二十四日に八十歳で示寂した。

ありさわーこうあん 有澤香菴

ー大正五年(一九一六)

大阪市顕孝庵十七世。号は香菴、字は梅萼。鴻池善右衛門が檀頭であったため、その賛同を得て、明治二十年(一八八七)春、大坂に英学を主として、和漢学は仏教書を教科書とする協立学校を創設した。宗門革弊の志により有志会の一人としても活

躍した。大正五年十月九日示寂。(『洞上高僧月旦』)

ありさわーしんけん 有澤深見

文政十二年(一一八二)ー明治三十八年(一九〇五)

安芸市閑慶院復立二世。号は道機、字は善應。文政十二年に生まれる。文久二年(一八六二)三月に永平寺へ出世。明治維新の廃仏毀釈により廃寺となったため、檀徒の岩崎家(三菱創業)との絆を強めて、永平寺の環溪密雲を復立開山に勧請して伽藍の復興や檀信徒の教化などに努めた。明治三十八年二月十日に七十七歳で示寂した。

ありたーかんりゆう 在田寛龍

ー明治三十二年(一八九九)

宮城県遠田郡皎善寺十九世、宮城県遠田郡瀧澤寺。号は玄翁。本師は在田寛宗。小牛田町出身のジャーナリスト千葉亀雄氏が幼少の頃、同寺の寺子屋で漢字を学んでいる。弘教書院刊の縮冊版大藏経を購求し、講社を結んで毎月説教を行った。明治二十

九年（一八九六）旧八月二十八日の道元禪師報恩式にあたり、故有栖川、北白川両宮殿下の御追福とともに征清討台戦死病歿者及び三陸海嘯震災水害横死者のために施食会を行っており、明治三十二年旧十一月十日に五十一歳で示寂した。

ありたーげんりゅう 在田彦龍

文政八年（一八二五）ー明治四十三年

（二九一〇）

岡山県川上郡桂岩寺十九世、井原市永祥寺独住十五世、井原市徳聖寺四世、井原市正本寺二十三世、池田市大広寺、甲府市大泉寺、東京都鳳生寺三十七世、南足柄市最乗寺独住六世。号は道興。文政八年四月八日に名古屋の在田某（尾張藩士）の次男に生まれる。受業師は性国端道。本師は来禪。天保十年（一八三九）夏に春日井郡松河戸村の観音寺仙巖の初会に入衆し、十一年二月より十五年二月まで但馬国出石町の見性寺靈鳳に随侍、同年三月より弘化三年三月まで丹波国水上郡竹田村の石像寺の宗桓に参随、同年三月から嘉永三年三月まで備前

国岡山景福寺の佛海に参随、弘化二年の冬に備中川上郡下原村の桂岩寺来禪の再会で首座を務め、翌年二月二十二日に来禪の室に入って嗣法する。嘉永元年（一八四八）正月十五日に備中後月郡西江村の徳聖寺に住職、四年備中国川上郡下原村の桂岩寺へ転住、文久二年四月後月郡西江原村の永祥寺に転住、明治元年には西京出役を命ぜられ、旃崖堂を補佐する。三年には如意庵住職として本山事務運営に務める。十一年

二月には總持寺東京出張所監院、十七年八月には總持寺顧問となる。これより先の七月五月攝津国池田町の大廣寺に転住、十七年六月に大泉寺へ、二十年四月に鳳生寺へ転住し、三十八年には最乗寺六世に就いた。嘉永三年の三衣事件以来、總持寺の出役を命ぜられ東奔西走して一生を總持寺のために尽し、明治四十三年三月三十一日に八十六歳で示寂した。（『潤門二十五哲』『洞上高僧月旦』『通俗仏教新聞』第八一〇号『大雄山誌』）

ありたーだいしゅう 有田大宗

明治二十六年（一八九三）ー平成三年

（二九九一）

小樽市龍徳寺六世、今治市天祐寺、香林寺、龍沢寺。号は祖庭。明治二十六年七月一日に広島県雙三郡八幡村に生まれる。本師は近藤愚童。大正七年（一九一八）曹洞宗大学を卒業する。八年愛媛県天祐寺住職、昭和五年（一九三〇）香林寺住職、龍沢寺住職、二十三年龍徳寺住職に就く。満州安山站駐在布教師、青年指導布教師、工場布教師、鉄道布教師、軍人布教師、両大本山布教師、特派布教師、二十六年に准師家、龍徳寺専門僧堂堂長、宗会議員、愛媛県仏教会理事、社会教育委員、方面委員、軍人遺家族相談部係員、司法保護委員、県協力会議員、少年保護司、物価監視委員などを務め、平成三年十一月二十八日に九十九歳で示寂した。

ありたーによさん 在田如山

安政六年（一八五九）ー昭和七年（一九

三二）

高岡市歛盛寺十五世、高岡市繁久寺二十五世。号は泰道、仙寿。安政六年十二月三十日に石川県羽咋郡高濱町の若狭資平の二男に生まれる。幼名を栄太郎という。受業

師、本師は在田雲峯。慶応四年(一八六八)冬、在田雲峯の初会に入衆し、明治十一年高岡市廣乾寺の吉田仙洲初会で立職した。十二年二月に在田雲峯の室に入って嗣法し、十三年東京駒込曹洞宗専門本校に入

学、十六年十二月に学期未満にして全科卒業する。十八年五月には總持寺に瑞世し、二十一年四月には富山県射水郡二塚村の歛盛寺住職、二十七年十二月に同郡下関村繁久寺へ転住する。二十九年八月には曹洞宗第十九中学林監理兼教授に、三十四年七月には曹洞宗宗会議員に当選し、同年十二月には宗務院教学部主事に任命される。三十二年六月には第九師団軍人布教師、三十七年には従軍布教師に任命され、日露戦役に

従軍した。四十一年には第十三師団軍人布教師、四十五年六月に再び宗会議員に当選、免囚保護事業を起して富山県曹洞宗承済会を設立し会長となる。昭和七年十二月

十七日に示寂した。(『現代仏教家人名辞典』『曹洞宗名鑑』)

ありたーほうしゅう 有田法宗

安政元年(一八五四)―大正三年(一九一四)

小樽市龍徳寺四世、熊本市大慈寺特選住職。号は得髓。安政元年十一月六日に佐渡国雑太郡相川大工町の有田善吉の二男に生まれる。受業師、本師は甲斐湖舟。新潟県の万能寺、函館の高龍寺に安居、江戸梅檀林ならびに曹洞宗専門本校で学ぶ。明治四十三年(一九一〇)四月に永平寺副監院に

任命され、四十五年一月には大慈寺に特選住職した。大正の初めより曹洞宗務庁の人事部長、財務部長に就任したが、財務部長在職中の大正三年五月四日に六十一歳で示寂した。(『龍徳寺の栞』)

ありながーけいどう 有永慶道

文政九年(一八二六)―明治十九年(一八八六)

新居浜市瑞心寺二十二世、広島県御調郡長

福寺十五世、広島県豊田郡吉祥寺十七世、

広島県豊田郡長福寺八世、広島県豊田郡阿弥陀寺十七世、尾道市天寧寺二十一世。号は大機。文政九年三月十五日に広島県尾道市向東町に生まれる。受業師、本師は喜山

元慶。加賀大乘寺の鉄籃無底に随侍し、その後、萬慶益豊、曹沢巨海、成道大能、国泰得翁らに参随した。明治九年(一八七六)十月九日に瑞心寺へ晋住、十六年六月には天寧寺に晋住、掛搭僧に提擲してい

た。明治十九年一月二十日に六十一歳で示寂した。(『瑞心寺誌』)

ありまーじつじょう 有馬実成

昭和十一年(一九三六)―平成十二年(二〇〇〇)

徳山市原江寺二十六世。号は真海。昭和十一年三月七日に生まれる。本師は有馬堅龍。昭和三十三年(一九五八)駒澤大学仏

教学部仏教学科を卒業。四十七年から市民文化ボランティア団体「禅の文化をきく会」事務局長、五十年から「在日朝鮮人・韓国人被災者を考える会」事務局長、五十

四年から「曹洞宗東南アジア難民救済会議」(JSRC)企画実行委員長、五十六年からJSRCを改組した「曹洞宗ボランティア会(平成四年から曹洞宗国際ボランティア会ⅡSVA)」の事務局長、平成八年(一九九六)から同会専務理事、十年から「NGOネットワーク山口」代表世話人にそれぞれ就任した。また、SVAを改組した「社団法人シャンティ国際ボランティア会」専務理事、「NGO活動推進センター」理事長なども務め、平成十二年九月十八日に六十四歳で示寂した。(『中外日報』平成十二年九月二十一日号)

ありまーほうせん 有馬蓬仙

ー明治十六年(一八八三)

いわき市長源寺二十四世。号は鶴翁。明治七年(一八七四)二月十九日に教導職の訓導に任命されており、十四年六月には「長源寺什物簿」を記して退隠した。明治十六年十二月二十九日に示寂している。

あわやーどりりゆう 粟谷童立

明治十四年(一八八二)ー昭和十年(一九三五)

北海道松山郡正覚院二十一世、滋賀県伊香郡喜見庵十四世。号は勇禅。明治十四年二月十二日に福井県三方郡耳村佐柿に生まれる。受業師は粟谷貫簡、本師は桐畑徳峻。明治二十七年(一八九四)九月より、三十五年八月まで滋賀県伊香郡洞寿院の桐畑徳峻の会下、三十六年八月より三十八年七月まで永建寺認可僧堂に安居する。四十一年八月樺太布教師に任ぜられ、四十四年十二月には西樺太教育会地方委員兼会報編纂員を務める。大正元年(一九一二)には一寺を創建して同慶寺と公称する。七年北海道曹洞宗道会議員に当選、十年再選される。六年六月には両本山巡回布教師を拝命し北海道を巡回する。昭和十年二月二十八日に示寂した。(『曹洞宗名鑑』正覚院蔵「履歴書」)

あんどーいくぜん 安藤育禪

明治二年(一八六九)ー昭和二十年(一

九四五)

長岡市長興寺二十八世、見附市善久寺十九世。号は天界。明治二年に新潟県長岡市に生まれる。本師は洞外梅仙。明治三十一年(二八九八)十一月二十一日より二十三日まで赤痢病罹災死亡者のため新井石禅を請聘して追悼大法会を営んでいる。両本山布教師や地方布教部布教師を務め、駒澤大学教授や新潟県宗務所所長にも就いた。長興寺の中興常恒会を開闢している。昭和二十年三月三日に七十八歳で示寂した。(『現代仏教家人名辞典』)

あんどーかくどう 安藤覚堂

ー昭和四十二年(一九六七)

厚木市広徳寺十六世。号は天心。政界においては安藤覚として代議士に五回当選し、衆議院日韓条約特別委員長、同外務委員長、自治、厚生各政務次官などを歴任している。昭和四十二年十一月二十七日に六十九歳で示寂した。

あんどうーせんめい 安藤鮮明

一 昭和九年(一九三四)

和泉市蔭涼寺二十五世、池田市無二寺十七世、藤井寺市清円寺二十五世。号は智光。

愛知県春日井市如意申新田に生まれる。本師は青木徹成。曹洞大学林を卒業し、両本山布教師、昭和二年(一九二七)には宗議会特選議員を務めている。昭和九年六月六日に五十五歳で示寂した。〔宗教時報〕第九十八号)

あんどうーどうかい 安藤道契

明治七年(一八七四)一 大正四年(一九

一五)

春日井市葉師堂(香林寺)三世。号は実參。明治七年十一月十五日に愛知県丹羽郡岩倉町の大島伊左衛門の三女に生まれる。

十三歳の時、岡崎市外円通庵の俊道に投じて出家し、龍海院の近藤疎賢について得度した。後に葉師堂二世安藤大賢に嗣法。明治二十年(一八九一)四月、京都養林庵の水野常倫に随侍し、三十六年に同志と相謀って尼僧学林を創設し、自坊の葉師堂を

仮校舎とした。四十二年十一月には名古屋

市北区の柳原に新校舎を建立したが、昭和二十年五月十四日の戦災で焼失した。尼学林(曹洞宗関西尼僧学林、愛知専門尼僧堂の前身)開闢の功労者の一人で、大正四年八月四日に四十二歳で示寂した。〔曹洞宗尼僧史〕

あんどうーぶんえい 安藤文英

明治十六年(一八八三)一 昭和三十三年(一九五八)

静岡県周智郡大洞院独住八世、静岡県周智郡崇信寺四十四世、静岡県引佐郡隣海院、静岡県引佐郡延命寺十四世、千葉市東禅寺二十五世。号は哲山。明治十六年七月十五日に尾張国熱田の安藤又八の二男に生まれる。受業師、本師は織田禅英。秋野孝道に

参随した。明治四十三年(一九一〇)に曹洞宗大学全科を卒業、四年間内地留学生となり宗学研究を行う。大正三年(一九一四)より可睡齋で参禅学道し、十年より曹洞宗第一中學校教頭、十五年より校長となった。曹洞宗教育審議委員、總持寺随行人

長、特派布教師、師家、昭和十九年(一九

四四)より總持寺監院を務めた。宗制新制審議会参与、行持軌範編纂会参与、駒澤大学教授、高祖大師大遠忌奉讃社会教化運動本部講師、總持寺顧問、神奈川県仏教会顧問、財団法人總持学園理事長などにも就いた。神保如天とともに『正法眼蔵註解全書』、『禅学辞典』を編纂した。『永平大清

規通解』、『修証義通解』なども著わしている。昭和三十三年四月十三日に七十六歳で示寂した。〔現代仏教家人名辞典』『曹洞宗名鑑』『曹洞宗現勢要覧』『禅学大辞典』『跳龍』第三二四号)

あんどうーぶんえい 安藤文英

大正十年(一九二一)一 昭和六十三年(一九八八)

長岡市長興寺三十世、栃尾市大栄寺十六世。号は大透。大正十年一月三日に新潟県栃尾市西中野侯に生まれる。本師は安藤透禅。台湾総督府新竹師範学校演習科を卒業。昭和二十二年に新潟県大栄寺住職、新潟県第一宗務所長、台湾国民学校訓導、県

内小中学校教諭、日本書芸美術院審査員、全国珠算連盟珠算検定委員、全国商工会珠算検定委員、長野県書道驥山館審査員などを務めた。昭和六十三年九月二十八日に六十八歳で示寂した。

あんどーぶんゆう 安藤文雄

明治三十二年(一八九九)ー昭和五十三年(一九七八)

横浜市徳翁寺三十三世。号は百川。明治三十二年十月三十日に愛知県東加茂郡旭村に生まれる。本師は松本全歳。駒澤大学を卒業し、長祿寺専門僧堂講師、管内布教師、曹洞宗布教師、軍人布教師、教区長などの宗内職を務めた。その他に白河町青年会講師、函館市連合男子女子青年団講師、函館市火防婦人会講師、司法保護委員、戸塚区司法保護常務委員、司法保護委員、戸塚区仏教会常務理事、横浜市戸塚民生安定所庶務係長などの宗外職も務めている。昭和五十三年一月十三日に七十八歳で示寂した。

あんのーせつどう 阿武雪童

明治三十二年(一八九九)ー昭和四十七年(一九七二)

萩市亨徳寺二十二世、山口県阿武郡東雲寺二十五世、萩市蔵海軒八世。号は耕雲。明治二十二年一月十一日に山口県阿武郡福栄村福井に生まれる。受業師は山田文勇、本師は岸田雪城。高田道見、岸月潭に参随した。大正八年(一九一九)山口県内布教師、昭和五年(一九三〇)に本山布教師、鉄道共敬会講師、その後、教区長や山口県方面常務委員、萩市北古萩民生委員、山口県社会教育委員、山口県救護委員、山口県少年救護委員なども務め布教師として活躍する。昭和四十七年一月二十一日に示寂した。